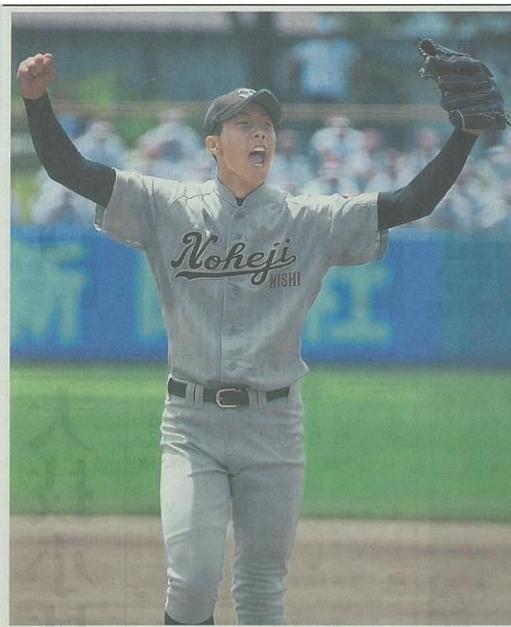


【野辺地西】	打点	安打	盗塁	球
①	3	2	1	0
②	3	2	1	0
③	3	2	1	0
④	3	2	1	0
⑤	3	2	1	0
⑥	3	2	1	0
⑦	3	2	1	0
⑧	3	2	1	0
⑨	3	2	1	0
⑩	3	2	1	0
⑪	3	2	1	0
⑫	3	2	1	0
⑬	3	2	1	0
⑭	3	2	1	0
⑮	3	2	1	0
⑯	3	2	1	0
⑰	3	2	1	0
⑱	3	2	1	0
⑲	3	2	1	0
⑳	3	2	1	0
㉑	3	2	1	0
㉒	3	2	1	0
㉓	3	2	1	0
㉔	3	2	1	0
㉕	3	2	1	0
㉖	3	2	1	0
㉗	3	2	1	0
㉘	3	2	1	0
㉙	3	2	1	0
㉚	3	2	1	0
㉛	3	2	1	0
㉜	3	2	1	0
㉝	3	2	1	0
㉞	3	2	1	0
㉟	3	2	1	0
㊱	3	2	1	0
㊲	3	2	1	0
㊳	3	2	1	0
㊴	3	2	1	0
㊵	3	2	1	0
㊶	3	2	1	0
㊷	3	2	1	0
㊸	3	2	1	0
㊹	3	2	1	0
㊺	3	2	1	0
㊻	3	2	1	0
㊼	3	2	1	0
㊽	3	2	1	0
㊾	3	2	1	0
㊿	3	2	1	0

# 野辺西太田8回零封

## 青商打線、散発3安打

【評野辺地西は初回、塁死球と犠打で1死2、野渡が左前へ2点適時打先頭の三上が右前打で出三塁の好機をつくり、中を放ち先制、二回以降も



▽1回戦(青森市営)  
野辺地西 210 000 001 07  
青森商 002 000 001 07  
(八回コールド)

▽野 太田 大向  
(曹)伊瀬谷 今  
▽本塁打 大向 野  
▽塁打 大向 大池 三上 相内 金浜 野 島高青  
▽暴投 伊瀬谷(青)

ヒーロー 野辺西・太田

### 緩急で翻弄 凡打の山

野辺地西の主戦太田は、修正を重ねて洗練した投球フォームで、青森商打線を手玉に取った。7奪三振で8回零封。昨年サイドスローに転向、打者を翻弄(ほんろう)するフォームを取り入れた。頭腦的な投球で初戦を突破した。

通常はゆったりとしたモーションだが、時折、クイックモーションを織り交せる。さらに、緩急をつけた配球で打者のタイミングを合わせない。青森商打線は三振と凡フライが続ぎスコアボードにゼロが並んだ。

小学生時代から投手一筋でずっとオーバースロー。転機は昨年だった。葛西監督から上級生にオーバールームがあるので、サイドにした。たどたどかこの助言があり転向。変化球の種類が増え直球も伸びるようになったという。

今春からはクイックを織り交せる投球術を取り入れ、最速143キロと決して直球が速いとは言えないものの、工夫と努力の積み重ねが結果に表れた。次戦の黒石商に向け太田は「打たせて取る自分の投球で、しっかり9回を投げ抜きたい」と自信をのぞかせた。

(泉匠哉)

磨いたフォーム・技実る

【野辺地西】青森商青森商打線を被安打3で零封し、雄たけびをあげる野辺地西の主戦・太田。青森市営

着実に追加点を挙げ、八回には大向の右越え本塁打で7-0とし試合を決めた。

青森商は主戦伊瀬谷が序盤から打ち込まれ、誤算。打線も野辺地西の太田の緩急をつけた投球に翻弄(ほんろう)され、散発の3安打に抑えられた。

緩い球打ちあぐねる

○：青森商は打線が野辺地西の主戦太田の緩い球にクイックが合わず零封負け、好球を見逃す一方、敵しいコースに手を出さずして打ちあぐね、秋田監督は「相手のベースが続いてしまった」と唇をかんだ。

低い打球を転がしチャレンスめくしようと作戦を立てたが、凡フライを打たされる場面が目立ち、攻めならず三回以降は1安打に抑えられた。実力差以上に開いたとも思える点差に、監督はお互い一生懸命やった結果」と言葉なだめた。